

柱	項目	現 状	課 題	今後の方向性
新しい公共を進める前提	社会状況	① 高齢化・単身世帯の増加(四日市) ② 家族機能の限界と外注化(四日市)	① これまでの取り組みの精査の必要性 (桑名)	
	社会貢献への意識	① 各主体(企業、行政、社協、学校など)が地域をよくしたいと思っている(桑名)	① 「税金を払ってるのに担い手にもなるのか」という市民の意識(松阪) ② 自治基本条例を守り育てる／地域の自治の精神を引き継ぐ活動が重要(名張)	① 社会貢献活動に気軽に関われる社会の雰囲気づくり(桑名) ② 新しい公共に参加しなければ立ち行かなくなっている社会状況を市民に考えてもらう(鈴鹿・名張) ③ 当事者としての責任を負う(津)
	市民ニーズ	① 合併により公共サービスが広範化され、市民ニーズがつかみにくくなった(津)	① 市民ニーズを拾い出す仕掛けが必要(津) ② 「地域が本当に求めているもの」のマーケティングができる資料が必要(津) ③ 地域の課題を把握することは難しい(松阪) ④ 生活スタイルに合った公共サービスがない(松阪)	
市民活動全般	市民活動の価値			
	市民によるサービスの提供の価値	① フォーマルサービス(制度サービス)からこぼれ落ちるインフォーマルサービス(制度外サービス*)の重要性は大きい(四日市) *きめ細かな生活支援、介護者支援、見守り・声かけなど ② 即応性・迅速性・専門性(桑名・四日市・名張・伊勢)	① 市民によるサービスの価値が十分認識されているとはいえない。(四日市) ② フォーマルサービスを「市民・NPO」が担うことの価値への認識が不十分(四日市)	① 行政は市民活動の力を認めざるを得ない(桑名)
	市民目線の政策提言	① NPOは市民の立場から政策提言を行うところに価値がある。(四日市)	① NPOが新しいことを提言すると行政には拒否感がある(四日市)	
	市民活動の量	① 市民活動の量が十分とは言えない(桑名)	① 若い世代の参加が少ない(鈴鹿) ② 高齢者の力を生かしていない(四日市)	① 市民活動を広くとらえる。(桑名) 地縁型/ミッション型/趣味型 ② 「私がまちづくりの主役」の意識付け(桑名) ③ 趣味型団体に「ちょっと社会の役に立つ」部分を取り入れてもらう。(桑名) ④ 企業が働く世代に市民活動を促す枠組みをつくる(鈴鹿) ⑤ 自分が楽しむ→社会貢献につなげる→地域活性化→経済活性化(松阪) ⑥ 世代に合った仕掛け(桑名)

	市民活動の質	① 市民活動の質が十分とは言えない(桑名)	① NPOの代表の多くがマネジメント力不足 →「自分以外のスタッフがついてこない」(津) ② 地域と学生の意識のずれ(津) 地域→若い人が参加しない 学生→地域から必要とされていない ③ 学生の力をもっと認める(松阪) ④ 学生に市民意識が薄い(津) ⑤ 人権教育の必要性(津) ⑥ 地域差・年齢差(松阪)	① 専門性を高め、発信する。(桑名) ② コーディネーター機能の充実(桑名) ・主体：行政 社協・ ・環境整備(信頼関係構築、情報集積) ・人材の確保 ③ 地域と学生を結ぶ仕掛け(津・松阪) ④ 積極的な若者の支援体制(尾鷲) ⑤ 団塊の世代が市民活動の質を変える (四日市)
新しい公共の 主体	市民			
	地域コミュニティ			
	自治会	① まちづくりの基礎・地域全体を統括(四日市) ② 行政とのつながりが強い。(四日市・名張)	① 行政からの押しつけといわれる活動状況 (名張)	① 独自のコーディネーターの確保(桑名)
	その他の 地縁団体	① 老人クラブ、子ども会、民生委員協議会等の連携 組織(四日市)	①老人クラブ、子ども会、民生委員協議会等の地 域団体の連携が弱い(四日市) ② 老人クラブの若手の社会貢献活動が不十分 (桑名)	① 各地域に有機的な連携組織ができる (四日市)
	ボランティア団 体/NPO	① 地域課題に気付いた仲間同士で自由に立ち上 げる団体がたくさんできている。(四日市) ② 特定の領域／こまわりがきく／関心がある人だ けでやれる自由さがある。(四日市)	① 次のリーダーの育成(四日市) ② メンバーのモチベーション維持(四日市) ③ 伝統的な地縁団体とは違う取り扱いを受ける (四日市)	① 自分も相手も楽しくやれる活動(四日市)
	住民が助け合 う新しいしくみ			① サービス利用者・協力者のマッチングシステ ム(四日市) ② コミュニティ・ソーシャルワーカー(四日市)
	地域限定なし			
NPO	① フォーマルサービス(介護保険、行政からの委託 事業等)(四日市) ② インフォーマルサービスもやる(四日市) ③ 専門性がある(桑名・四日市) ④ 政策提言を行う(四日市) ⑤ 即応性・迅速性(名張)	① 後継者の不在(四日市・伊勢) ② 資金不足(四日市・伊勢) ③ NPO自身ももっとしっかりする(伊勢) ④ 会員不足(伊勢) ⑤ ボランティア不足(伊勢) ⑥ 若者が参加していない(伊勢) ⑦ 市民のNPOの認識が低い(鈴鹿・伊勢) ⑧ NPOが地域課題をよく理解する(名張) ⑨ 規模・内容とも多様であるため、支援の幅の 広げ方がむずかしい(鈴鹿)	① コーディネーターの確保(桑名)	

	NPO以外			
	主体的な個人 ～ボランティア	① 元気な高齢者の社会貢献意欲が高まっている(桑名・四日市) ② 学生の意欲が高い(津)	① 高齢者を生かす体制が不十分(四日市) ② ボランティアのあり方(有償・無償)の検討が必要(伊勢) ③ 若い人の参加を支える仕組みが不十分(津・松阪)	① 高齢者ボランティア活動促進制度(桑名) ② プロボノ型人材バンク～人材ポケット(四日市) ③ 気軽なボランティア先の紹介(桑名)
	楽しみを中心に活動する団体	① 生涯学習や趣味の活動団体は多い。	① 社会貢献につながる活動に踏み出せていない。(桑名)	① 「ちょっと社会の役に立つ」部分を取り入れてもらう。(桑名)
	社会福祉協議会	① 行政も企業もできない福祉の仕事を根気よく行う(名張)	① 仕事が見えにくい(名張) ② 住民やNPOとの協働に課題(名張)	① 情報資源の循環(桑名) ② 行政と企業の狭間を埋める(名張)
	労働福祉団体			① 社会参加の働きかけ
	企業	① 企業は地域貢献を常に考えている。(桑名) ② 地域企業の4割が社会貢献を実施(松阪) ③ 企業で働く人が個人として行う地域活動・社会貢献活動(桑名) ④ 厳しい経済環境の中で「新しい公共」を考えたり実践できる企業は多くない。(名張)	① 地域の中で生き残るには、社会貢献が重要(名張) ② 企業があり続けることの大切さ市民に周知(名張) ③ 公共性と利益追求との関係(松阪)	① 経営者の率先的社会貢献活動(桑名) ④ 商工会議所等による社会貢献活動の意識化・人材育成(桑名) ⑤ 新しい公共の大胆な実践(名張)
	市町		① 首長が変わると方針が変わる。(尾鷲) ② 行政担当者は現場を知らない。(尾鷲) ③ 議員の関心度(尾鷲)	④ 市民活動が提供するサービス情報をローコストで循環(桑名)
	県		① 首長が変わると方針が変わる。(尾鷲) ② 行政担当者は現場を知らない。(尾鷲) ③ 議員の関心度(尾鷲)	④ 全体の旗振り役・キャンペーン(桑名)
協働 (行政と市民活動)	自治体職員の「協働」理解	① NPO＝圧力団体という認識(四日市) ② 協働しようにもどんなNPOがあるのかわからない(四日市)	① 担当者によって対応が変わる(四日市) ② 助成金の申請書が複雑すぎる(四日市) ③ NPOへ理解不足(四日市・伊勢)	① 市町レベルで「協働指針」作成(桑名・四日市) ② 助成金申請書の簡素化(四日市) ③ 行政の協働本気度が問われる(桑名)
	事業・政策形成	① NPOが新しいことを提言すると拒否感がある(四日市)		① NPOの政策提言機能の受け入れ
	行政の役割	① 住民自治協議会の力を生かす(名張)	① 行政の守備範囲(名張) 住民の合意形成が必要 時代に即応したもの ② 地方自治のプロとして、地域の将来の姿を指し示すような、市民の指導的な立場であってほしい。(四日市)	① 財政的支援(四日市) ③ 活動しやすい環境づくり(四日市) ④ 情報提供をもっとすべき(四日市) ⑤ NPOの力を引き出す。(桑名) (人材発掘、ネットワーク、コーディネート) ⑥ NPOのコーディネート(桑名)

協働 (企業と市民活動)	役割分担	① 専門性 例)「便利屋」と助け合いサービス(四日市)		
	協働の内容	① 企業とNPOの協働は可能(名張) ② 地域企業の3割が市民活動団体との連携を検討(松阪)	① 民間企業とNPOの接点がなさすぎる(津) ② 企業はNPOが見えない→相互の情報不足(津)	① 企業で働く人の市民活動を応援(桑名) ③ 退職予定者の社会貢献活動奨励(桑名) ④ 資金支援(桑名) ⑤ 経営スキル・ノウハウの提供(桑名) ⑥ コミュニティビジネスによる関係構築(伊勢)
協働 (市民活動相互)	自治会と市民活動団体	① 地縁団体 → 地域課題を解決するサービス NPO → 専門性を生かしたサービス(桑名)	① 交流・協働が不十分(桑名・伊勢) ② フラットな関係が築けていない(松阪)	③ 交流の促進(桑名) ④ 地縁団体とNPOのコーディネーター
	市民活動団体相互		① 協働が不十分(伊勢)	
	社会福祉協議会との協働		① 協働が不十分(伊勢)	
協働全般			① 連携という言葉の意味の相互理解(松阪) ② 多様な主体とのネットワークができていない(松阪) ③ 連携ありきというより、各自ががんばることで自然に協働が実現することもある(松阪)	① Win win の関係構築のための相互理解(松阪) ② 職域や業種を超えた繋がりの中間支援(尾鷲)
「新しい公共」 のコスト/資金	誰が負担するのか	① サービス利用者が負担(有料サービス) 恒常的にサービス提供している場合 ② サービス提供者が負担(無料サービス) ・ボランティア(月1回程度の活動の場合) ・フォーマルサービス(有償サービス)に付随させる(恒常的な活動の場合)(四日市) ③ 行政による財政的支援(四日市)	① 新しい公共のコスト負担のあり方が不明確(四日市) ② NPOは報酬をもらわず働いている人が多く、様々な犠牲の上に成り立っている(津) ③ 税金が公平に使われているかどうか見えていない(松阪)	① 認定NPO法人による市民活動基金応援基金(桑名) ② 企業による「福祉文化基金」(桑名) ③ 行政による支援(四日市)
	資金支援の方法		① フォーマルサービスの契約額が低い ② インフォーマルサービスの財源なし(四日市・伊勢) ③ 特定のNPOのみが支援される。(伊勢) ④ 助成金・補助金のあり方を考える必要(伊勢) ⑤ 基金の創設が必要(伊勢) ⑤ 小規模NPOを支援する方法検討(鈴鹿) ⑥ コスト削減とサービス向上のバランスがむずかしい(松阪)	① 認定NPO法人による市民活動基金応援基金(桑名) ② 企業による「福祉文化基金」(桑名) ③ 行政による支援(四日市) ④ 補助金をもらった事業はオープンに(津) ⑤ 地域資源循環(松阪) 地域マネー等 ⑥ 地域で支えるしくみづくり(尾鷲9 ヒト・モノ・カネ

市民活動のコーディネーター (中間支援)	地区市民センター 地域コミュニティ			① 地域のコーディネーター(四日市) ② コミュニティ・ソーシャルワーカー
	市民活動センター		① ボランティアのきっかけづくりやプレゼンテーションの申請書の書き方等の講座をもっと実施できるといい(伊勢) ② 助成金情報の発信が必要(伊勢) ③ 支援のあり方の検討が必要(伊勢)	
	民間中間支援組織		① 行政に近い中間支援団体が補助金の情報をいち早くつかんでしまう。他のNPOを支援する姿勢に問題がある(津) ② 補助金と団体とのマッチング力がない。(津) ③ 中間支援団体の人件費がギリギリで、組織はあるが機能を果たしていない。(津)	① 機能を果たしていないことは認めて、新しく仕組みを組みなおす。(津)
	社会福祉協議会	① 地域福祉、ボランティアのコーディネーター(四日市) ② 行政類似の存在として認識されている。(四日市)	① 予算など活動の自由度に制約がある(四日市) ② 地区社協との連携がない。(四日市) ③ ボランティア・NPOとの協働に課題(名張)	① 継続的な人材活用によるコーディネート(桑名) ② 行政と企業の狭間を埋める(名張)
公共施設のあり方	全般	① 多くの公共施設が稼働していない(津)	① 公共施設が稼働していない(津) ② 市の規則で思い切った使い方ができない(津)	① 既存の公共施設の活用(津) ② 管理スタッフの柔軟性(津) ③ 文化的な意識を高める(津) ④ 人が集まる拠点の整備(尾鷲)
	活動拠点 (地域コミュニティ)		① 地域の集会所が使われていない	① 地域の集会所の有効活用
	活動拠点 (NPO)	① 鈴鹿は公民館、亀山は協働センターが拠点であり、拠点は重要。(鈴鹿)	② 夜間・土日利用可能が不可欠(鈴鹿) ③ 公民館等も含めた活動拠点の未整備(鈴鹿)	
情報	情報発信の強化		① NPOからの情報発信が弱い(津)	① メディアの活用(松阪) ② インターネットが気軽に利用できるフリースポットの整備(尾鷲)
災害支援	災害支援		① 災害支援のあり方を再検討(尾鷲)	① 地域に合った支援とボランティアの受け入れ態勢(尾鷲9)